

健やかな食生活のための環境整備事業

南多摩保健医療圏

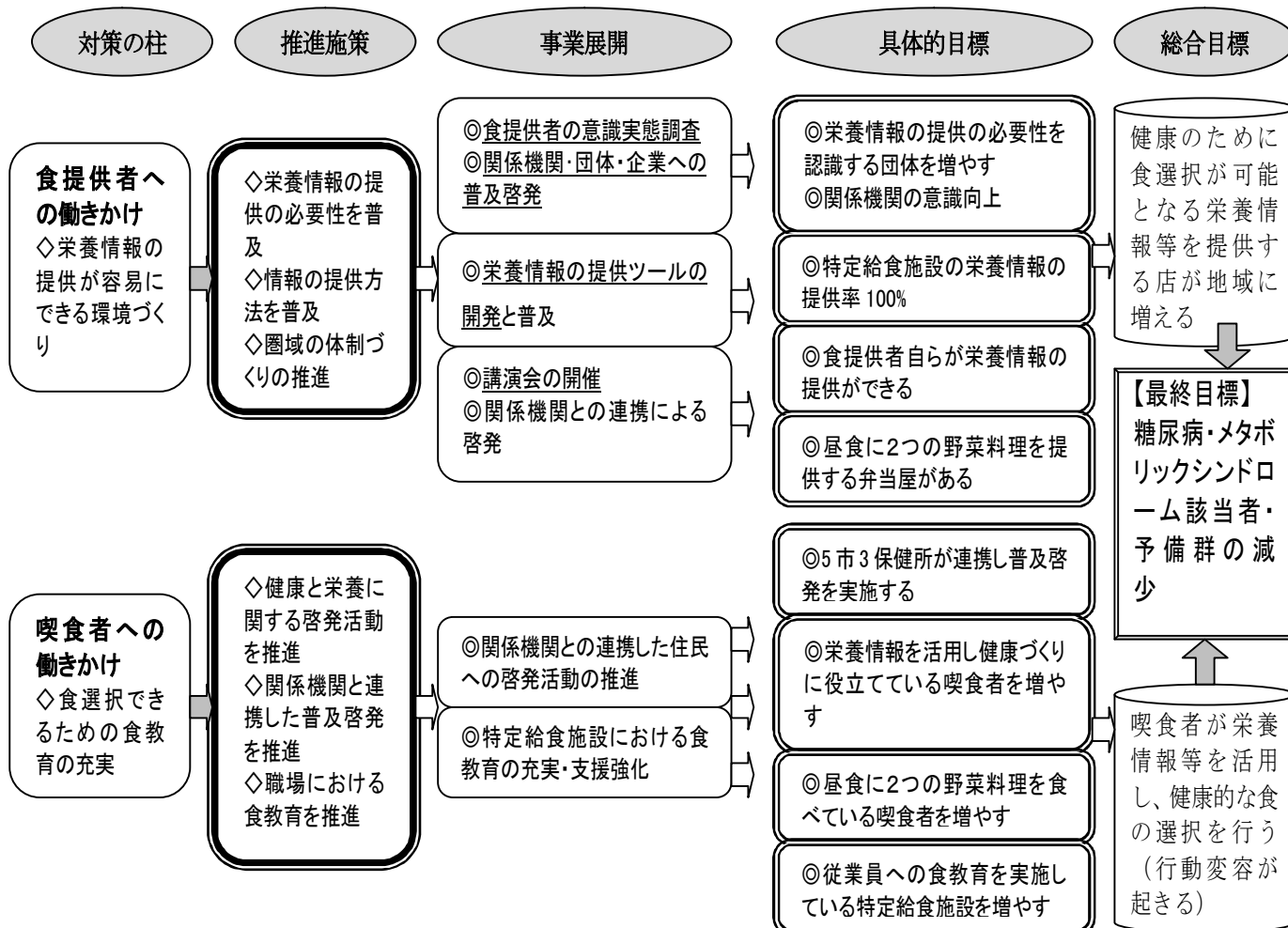
実施年度	開始 平成 21年度、 終了（予定） 平成 22年度
背景	東京都が実施していた健康づくり協力店事業は平成17年度で廃止され、栄養成分等表示店として自主的に表示をする事業へと変更されたが、栄養成分等表示店の件数は停滞している。一方で、糖尿病有病者数の推計値は増加しており、働き盛り世代の糖尿病・メタボリックシンドローム対策として、栄養情報の提供を外食等で実施することは重要なアプローチとなっている。また、都民の1日当たりの野菜摂取量は平均269.3gであり、望ましい野菜摂取量の350g以上を下回っている。特に外食等の頻度が高い人ほど、野菜不足が指摘されている現状から、野菜に着目し、それを切り口に新たなムーブメントを作っていくことが重要な課題となっている。
目標	特定給食施設及び飲食店等（仕出し・弁当屋）の食の提供者が、自主的に栄養情報を提供できる支援手法の確立を目指す。また、住民（利用者）が栄養情報を活用し健康的な食選択が可能となるよう、南多摩保健医療圏の5市との連携により普及啓発を実施する。
事業内容	1 ツール開発・検証 食の提供者が自主的に栄養情報を提供できるよう、野菜重量表示マーク（以下「野菜マーク」という。）、野菜シールラリー台紙、ポスターなどのツールを試行的に作成し、町田市役所職員食堂及び日野市民食堂でツールを活用したキャンペーンを実施した。キャンペーンは、メニューに野菜マークの表示、野菜料理が2つ（140g程度）とれるメニューの提供、野菜シールラリー（野菜料理を食べて、その分の野菜マークシールを集めるイベント）、野菜に関する知識の啓発等を行った。 2 意識・実態調査 南多摩保健所及び町田保健所管内の仕出し・弁当屋を対象に栄養情報の提供等の意識・実態を把握するため、アンケート調査を実施した。 3 講演会の開催 食の提供者等を対象に、外食や中食等で野菜をとるための工夫について講演会を実施した。
評価	① 町田市役所職員食堂及び日野市民食堂でのツールを活用したキャンペーンでは、野菜重量表示について、食の提供者から取り組みやすいとの評価を得られた。食の利用者には、野菜に関する知識の向上とツールへの理解が得られ、野菜料理の摂取にも変化がみられた。野菜シールラリーに参加した約6割の方が、野菜マークを参考に食事を選択した。このキャンペーンで取り組んだエネルギー表示の継続希望の割合は高く、町田で69.2%、日野で85.7%であった。 ② 町田市での取組では市の協力を得ながら保健所が主体となり実施したが、市が本事業を理解し協働することが重要であることを踏まえ、日野市市民食堂での取組（3月）では、市長への働きかけを行い、市との共催で「野菜を食べよう！市民食堂で野菜シールラリー」を実施することができた。 ③ 仕出し・弁当屋での栄養情報の提供等に関する実態調査を114施設に実施し49施設から回答を得た。野菜重量表示を行っている弁当屋は1件もなかったが、野菜料理レシピや栄養メモに興味を持っている弁当屋は約7割であった。 ④ 講演会の実施では、関係者との情報共有が図られ意識の醸成へつながった。
問い合わせ先	東京都南多摩保健所 生活環境安全課 保健栄養係 電話 042-371-7661 ファクシミリ 042-375-6697 E-mail S0200162@section.metro.tokyo.jp

1 事業体系

本プランの対策の柱、推進施策、事業展開、具体的目標、目指すべき最終目標を体系的に示し、所内及び関係機関が常に共通の認識で本プランに取り組めるようにした。

南多摩圏域における食環境整備 ～外食等の栄養情報の提供～

下線は平成 21 年度実施した事業



2 事業実施体制

PT の設置

◆ 目的

保健所の多様な職種による総合力を発揮し、また、事務局保健所として町田保健所及び八王子市保健所と連携を図りながら推進する。

◆ 設置時期

平成 21 年 4 月に PT を設置し、平成 21 年度は計 4 回 PT 会議を開催した。

◆ メンバー構成

企画調整課（地域保健推進担当副参事、企画調整係）、生活環境安全課（課長、食品衛生係、保健栄養係）、町田保健所（食品衛生係、保健栄養担当）、八王子市保健所（保健栄養係）、アドバイザー（東京家政学院大学准教授）の計 12 名

ツールの開発と検証

1 ツール開発の目的

食の提供者が容易にかつ自主的に栄養情報の提供ができるようなツールを開発する。

◆ 栄養情報の提供で目指したもの

野菜の摂取量が不足しているため、野菜重量の表示に焦点をあてた栄養情報の提供を目指した。

2 ツール開発の視点

- (1) 食の提供者に受け入れやすいツールとして、栄養価計算や、それをもとに換算するなどの複雑な工程を必要としないものとした。
- (2) 喫食者の目を引き、イラストや簡単な文字・数字だけで理解できるものとした。

3 ツール

(イ)

(1) 食の提供者用

- ア 野菜重量表示マーク
- イ 野菜料理表示ガイド（リーフレット）
- ウ 野菜シールラリー台紙
- エ ポスター・栄養カード（啓発用）
- オ メッセージカード（テーブルメッセージ）
- カ メニューにつける野菜重量カード（内容案を保健所が提示し、協力企業が作成）



(2) その他

- キ 下記キャンペーンに必要なポップやポスター（周知用）等
- ク 喫食者の食教育用媒体（市販のもの）

(ア)



(ウ)



(エ) (一部)



(オ)



(カ)



(キ) (ポップ等の一部)



(ク) (一部)



3 ツールの検証

- (1) ツール（案）を使用して、キャンペーンを実施し食の提供者が容易に栄養情報の提供が可能か、継続可能かを検証した。
- (2) アンケート調査を実施し、利用した喫食者の知識等が向上するか、ツールの理解が得られるかを検証した。

4 キャンペーン

キャンペーンでは栄養情報の提供以外に、野菜料理の食べ方を提案し、「お昼に野菜料理を2つ食べる」環境づくりとして、食の提供者へ「野菜料理2つとれるメニュー」の提供を働きかけ、喫食者への食教育も併せて実施した。

(1) 実施期間及び体制

◆ 町田市役所職員食堂(特定給食施設)「野菜料理2つとろう！キャンペーン」

【期間】平成21年10月1日（木曜日）～30日（金曜日）

【体制】主催：南多摩保健所 町田保健所 協力：町田市互助会、健康課
協力企業：(株)ニコクトラスト

◆ 日野市民食堂(一般飲食店)「野菜を食べよう！市民食堂で野菜シールラリー」

【期間】平成22年3月1日（月曜日）～19日（金曜日）

【体制】主催：南多摩保健所 日野市健康福祉部健康課 町田保健所
協力：日野市総務部財産管理課、まちづくり部産業振興課
協力企業：(株)ベルハート

(2) 共通実施内容

ア メニューや献立表等に、そのメニューに入っている野菜の量を、野菜重量表示マークで表示

イ 野菜料理2つ（野菜約140g）とれるメニューの提供

ウ 野菜シールラリー

野菜料理の「つ」の数に合わせた野菜シールを渡しシールを集めて景品と交換

エ 野菜に関するポスター等による啓発等



(3) オリジナルの内容

◆ 町田市

ア ピンクリボン月間にちなみ、野菜70gがとれるピンクリボン小鉢とピンク色のご飯の提供と普及啓発

イ 栄養に関する卓上メモ



◆ 日野市

ア 女性の健康週間にちなみ、乳がん予防をテーマとした啓発とピンク色を強調したごはんの提供

イ おひなさまスペシャルランチの提供（野菜料理2つとれるメニュー）

意識・実態調査

1 調査目的

お弁当を販売している事業者の方の意識や、栄養情報の提供についての現状を把握し、今後の啓発活動の資料とする。

2 調査対象

南多摩保健所及び町田保健所管内にある仕出し屋、弁当販売店、スーパー等

3 調査方法

南多摩保健所から調査対象施設に郵送にて依頼し、郵送にて回収する。

4 回収率

43.0%

5 調査結果（概要）

主力弁当の野菜使用量が50g以下の割合 18.4%
50g～110gの割合 38.8%
110g以上の割合 16.3%

【少ない理由】

- ◆野菜料理のレシピが少ない
- ◆弁当箱の容量が小さい

主力弁当の野菜使用量を把握している 47%

栄養情報の提供 有 57%
無 43%
野菜重量表示 0 店舗

健康に配慮したレシピ作成・栄養情報の提供に関して興味がある 72%

講演会の開催

【テーマ】 野菜好きを わくわく・たのしく 増やす

【日 時】 平成 22 年 3 月 9 日（火曜日）

【会 場】 多摩市永山公民館ベルブホール

【参加者】 関係団体、給食施設、一般市民 92 名

【内 容】 ◆ 講演：子供は野菜が大好き ～子供の時から野菜に親しむ食育を～

講師：サカモトキッチンスタジオ主宰 坂本 廣子 氏

◆ シンポジウム：野菜を楽しもう ～おいしくて健康になれる野菜の魅力～

○ コーディネーター 東京家政学院大学准教授 松月弘恵 氏

◇ 野菜の機能と弁当活用法 松月 弘恵 氏

◇ 日野市食育推進計画 ～農業支援と食育連携～

日野市まちづくり部 滝井 元視 氏

◇ 野菜のおいしさ再発見 ～野菜を楽しむレストラン～

くにたちファーム国立本店 高橋 雅人 氏

◇ スタンプ集めて小鉢 1 品と交換 ～大学での小鉢マラソン～

大学生協東京事業連合会 高橋 亮子 氏

◆ 展示：学校、福祉施設、地域団体が取り組んでいる野菜に関する食育について、パネル等の展示やリーフレット等の配布を行った。



4 評価

1 ツールを活用したキャンペーン

- (1) 食の提供者から、取り組みやすいとの評価を得られ、町田市役所職員食堂、日野市民食堂共に、現在も野菜重量表示が継続されている。
- (2) 町田の利用者では、野菜に関する知識の向上とツールへの理解が得られ、お昼に野菜料理を2つとっていると回答した方が、キャンペーン後の方が多くみられた。
- (3) 日野の野菜シールラリーに参加した約6割の方が、野菜重量マークを参考に食事を選択した。
- (4) このキャンペーンで取り組んだエネルギー表示の継続希望の割合は高く、町田で69.2%、日野で85.7%であった。

2 キャンペーンの実施体制について

町田市役所職員食堂での取組（10月）では市の協力を得ながら保健所が主体となり実施したが、市が本事業を理解し協働することが重要であることを踏まえ、日野市民食堂での取組（3月）では、市長への働きかけを行い、市との共催で「野菜を食べよう！市民食堂で野菜シールラリー」を実施することができた。

3 実態把握(アンケート調査結果)

仕出し・弁当屋での栄養情報の提供等に関する実態調査では、野菜重量表示を実施している弁当屋は1件もなかった。一方、野菜料理レシピや栄養メモに興味を持っている弁当屋は約7割であった。また、キャンペーンで使用した5つのツールについて活用したいかを尋ねたところ、1つ以上のツールに対し「活用してみたい」、「積極的に活用したい」と約半数の店舗が回答した

4 講演会

野菜摂取を増やす取組として関係者との情報共有が図られ意識の醸成へつながった。

5 平成22年度計画

1 平成22年度の目標

弁当を販売している店舗を対象に、開発したツールを活用したモデル事業を通して、支援方法等のガイドラインを作成する。また、保健所と市の協働により住民が栄養情報を活用し健康的な食選択が可能となるよう、普及啓発を実施する。

2 平成22年度の事業内容

- (1) モデル事業の実施
4点セットツール（野菜重量表示マーク、野菜料理表示ガイド、啓発用栄養カード、新たに作成する野菜料理レシピ）を弁当屋に提供し、自主的に栄養情報の提供を実施してもらい、また、野菜料理が2つ（野菜140g）とれる弁当販売を実施してもらい、支援方法について検討する。
- (2) 各市関連事業と連携した普及啓発の実施
- (3) 特定給食施設における食教育の充実支援
- (4) 報告書作成（ガイドラインの作成）